# 令和４年度 第２回 佐倉市立美術館運営協議会

## 議事録

日　時：令和５年３月２日（木）　１４：００～１６：００

場　所：佐倉市立美術館　４階ホール

出席者：以下のとおり

（委　員　５名）
　　田中委員、豊田委員、長澤委員、樋田委員（会長）、安本委員
（美術館職員　５名）
　　柴田館長、本橋副主幹（学芸員）、木邨主査（学芸員）、
　　黒川学芸員、西川主任主事（学芸員）

<u>会議次第</u>
１．開　　会
２．あいさつ
３．報告事項
（１）令和４年度事業報告について（公開）
（２）令和５年度事業計画について（公開）
（３）その他　　（公開）
４．協議事項
（１）作品の受け入れについて　　（非公開）
５．閉　　会

【２．あいさつ】
＜館長よりあいさつ＞

【３．報告事項】

（１）令和４年度事業報告について（資料４～５頁）
＜事務局より説明＞

（会長）
令和４年度事業について、報告していただきましたが、何かご意見はございますか？
（委員）
新春佐倉美術展のことで一つ報告をさせていただきます。以前、運営協議会委員の皆様から賞など設定してはどうかというご意見がありましたので、先日行われた新春佐倉美術展の実行委員会でその旨を伝えていただきました。絵画部門と工芸・彫刻部会で一旦持ち帰り、前向きに検討するというところまで話が進んだとの事なので、ご報告いたします。
（会長）
ありがとうございました。ちなみに昨年度と比べて新春展の入場者数は増えているのですか？
（美術館）
昨年度が１，８９１人、本年度が２，５９９人です。コロナに対する警戒心が少し弱まってきたこともあると思われますが、本年度は前年度と比べて開館日数が増えたという事情もありまして、人数は増えております。
（会長）
入場者が増えているのであれば、賞を出したら、きっと出品者の方々には励みになるのではないでしょうか。
私も同展の工芸の審査に関わったので、ご報告いたします。新春佐倉美術展のような市民展は、どうしても仲間内で和気あいあいとした雰囲気になりがちかと思うのですが、先日行われた審査では９点か１０点落選させました。何を落選させたかというと、デコパージュ（Decoupage）という分野の作品です。有名な画家の絵を印刷したものを買ってきて切り抜き、何段にも貼り重ねていく装飾品です。その作品の審査では最終的に「芸術というものは独創性が重要であり、本展は創作が命の展覧会である」という意見が大勢を占め、デコパージュは全て落選になりました。この度、新春佐倉美術展に関係する方々が熱心に町の文化を育てようとしている姿を見て、これはいいなと思いました。ただ、その事で入場者数に影響があったかなと心配したのですが、入場者数は増えているとのことで安心しました。
（委員）

コロナの影響で日本全国の美術館の入館者数が減ってしまった中、目標が７万人、実数が４万人の入館者数というのは立派な数字だなと思って伺っていたのですが、先程、報告された企画展と収蔵作品展の人数を足しても４万人いかないと思うのですが、どのように数字を算出しているのでしょうか？

（美術館）

事業報告の中にある入場者数は、展示室に入られた方の人数となります。入館者数は、美術館の中に入られた方の総数となります。

（委員）

市民活動の場の提供という欄に市民ギャラリー、ホールの貸出しとありますが、こちらの利用者の数字も入っているという事ですね。

（美術館）

１階のカフェ、今、営業しておりませんが、ショップの利用者も含まれます。

（委員）

分かりました。あと、カウントの仕方が難しいと思われるのですが、佐倉市内の方と市外の方の割合はどのようになっているでしょうか？

（美術館）

アンケート調査によると、展覧会によって差はありますが、佐倉市内の方の方が多いように思われます。

（委員）

分かりました。

（会長）

今は音楽会はやっていないのですか？

（美術館）

開催しております。入館者数については、ミュージアム・コンサートの来場者もカウントしております。

（会長）

様々な分野がありますが、文化的なものを求めて、人が集まってくるというのは良いことですよ。

（美術館）

これまで出掛けるのを控えていた方々が、イベントを欲しているという事かもしれません。

（会長）

そうですね。入館者数４万８千人、約５万人ですね。立派な数字だと思われます。

（委員）

企画展「清原啓子展」について、市内の高校生を無料にした件ですが、入場者数が少なめだから高校生を対象としたのか、又は最初から高校生にＰＲしていこうというお考えだったのか？また、その結果が３人だったという原因についてどうお考

えでしょうか。１２月は期末テストがあったりしますが、１１月がありますからね。
（美術館）
まず、清原啓子という作家の好きなものを最後まで突き詰めるという姿勢を感受性の強い高校生に感じて頂きたかったというのが１点と、ポスター等を見て、もしかしたら今の高校生に受け入れられやすいのではないかと期待して、教育長と学校へ出向いて、各校の校長先生に直接お話をしたりしたのですが、結果は３人となりました。今後はもう少しアプローチの方法を考えてみようと思います。
（会長）
清原啓子の作品は、もう少し上の世代の方が親しめるような印象があります。そういう学生ではない女性層、どこの美術館も人数が増えるのはその世代なのですが、家庭に入った人達も含めて、そういう人達にどうやって美術館に来てもらうのか、それは今後の一つの課題ですね。
（委員）
私も委員になって、お会いする方々になるべく美術館の話をするようにしているのです。先日、４０代位の女性に声をかけたら、その方はこれまでこの美術館に来たことがなかったのですが、たまたま来館した日に音楽会をやっていたらしく、「無料でこんな近くで芸術に触れることが出来て、コンサートまで聞けて、コスパ高いよね」ととても好評でした。一度、来た方はまた来てくれるようになると思うのですが、このように、美術館に来たことがない人がまだまだ沢山いると思います。
（会長）
「清原啓子展」は良い展覧会だったので、例えばどなたか人が集まってくるような人（例えば、漫画家のヤマザキマリ氏とか小説家の原田マハ氏とか）をなんとか呼んできて、担当学芸員と対談するとか、如何でしょうか？人が集まることも重要ですが、清原啓子という作家の評価もリニューアルされるのではないでしょうか。良い作家だと思いますので、今後、何か工夫を考えてみてください。
（美術館）
はい、検討させていただきます。
（委員）
このコロナの時代においては相対的に見て、どこの美術館・博物館も入館者数が減少しているのはしょうがないと思うのですが、そんな中でこの美術館はかなり頑張っているなと気がします。どこの館も歳出に対して１０～１５パーセント位の歳入が通常ではないかと思われますが、ぱっと数字を見て２５％位は歳入があるようなので、頑張っているなという印象を持ちました。図録等の制作など、学芸員が大変だったろうなと。もっとも年間の歳出全体の中で見ていくと、１０パーセントまでいかないのは、無料の展覧会もあるからですね。有料の展覧会の中だけで見れば、良く出来た数字ではないかと思います。

教育普及の関係で市民ギャラリーの遊休部分をなんとか埋めて、活性化を図られたのではないかと感じます。特に「美術館で遊ぼう・学ぼう！ミュージアムツール体験展示」は小さいお子さんからある程度の年齢の方まで楽しめる内容だったのではないかと思います。２月４日から２６日までという、年間をとおして寒い時期に、無料といえども、１日平均２８人はすごいと思いました。こういったことが出来るのであれば、どんどんやっていきながら、美術に関心を持つ人達の底辺を広げていくと良いのではないでしょうか。

先程、高校生の来館が少ないと指摘がありましたが、これはどこの博物館、美術館でも何十年と続いている傾向だと思われます。高校生・大学生の来館者数は一番少ないのです。無関心ではないのでしょうが、図書館に比べて博物館・美術館は敷居が高いようです。小学生に図書館へ行ったことがあるかと聞くと、ほとんどの生徒が手を挙げるはずです。では、博物館や美術館はと聞くと、行った事が無いと答えます。そこは勉強をしに行く場所であり、皆さん気軽に行って下さいと理解してもらう事、如何に底辺を広げていくかという事が今後の博物館教育の課題だと思われます。

そうした役割を担うものとしてこの度の「美術館で遊ぼう・学ぼう！ミュージアムツール体験展示」は如何に美術館の敷居を下げるかという、如何に気軽に美術館に入るかという経験をできる企画かなと思います。また、可能であれば、来館者の底辺を広げるという意味で、佐倉市内の公立私立の高等学校の美術部とタイアップして、美術部の生徒さんの作品を展示して、市内の高等生に注目してもらう企画が出来ればいいのかなと思います。

（会長）

それではそろそろ次の議題に移りたいと思います。

（２）令和５年度事業計画について（資料６～７頁）

＜事務局より説明＞

（会長）

令和５年度事業計画について、何かご意見はございますか？

（委員）

「夢咲くら館」との連携事業ということですが、美術館内だけの展示ですか？それとも「夢咲くら館」内のギャラリーでも展示をしますか？

（美術館）

今のところ、展示は美術館のみの予定です。ただ何かしら連携事業は実施したいと考えております。

（委員）

もし、出来ることであれば、美術館と図書館の相互連携ということで、文化庁の方でも推進しているようですから、この機会に美術館自体もアピールした方がいいかなと思います。

（美術館）

この度、図書館との連携ということで、展覧会のチラシ裏にも記載したのですが、市内各図書館内に宮西達也氏のコーナーを作る予定です。また宮西達也氏を呼んで行うイベントは「夢咲くら館」内において実施予定です。現在、「夢咲くら館」は３月４日の開館準備で余裕が無い状態なので、今後、折を見て連携内容について考えたいと思います。

（会長）

次に、この junaida（ジュナイダ）というのはどういう作家なのでしょうか？

（美術館）

京都市に在住する日本人の作家で、主に装丁や絵本等を手掛けている作家です。作家名は本名の「あいだ じゅん（Aida Jun）」をひっくり返したものです。

（会長）

この人がここに出てくるのは、どういう経緯なのですか？

（美術館）

この展覧会も「夢咲くら館」との連携事業を想定しています。本に関係する作家であり、かつ展示する作品自体の完成度も高いことを意識しています。

（会長）

では、千葉県にゆかりのある作家という事ではないのですね。

（美術館）

はい、ゆかりではなく、本に関係する作家という事で選びました。

（会長）

本に関係した作家という基準だと該当する作家が幾らでもいそうですね。そうなると、選ぶ基準としては少し弱いかと思われます。

（美術館）

これまでは佐倉、千葉、オランダ等、ゆかりの作家を扱っていたのですが、今回、向かいに新図書館（「夢咲くら館」）が開館する事をきっかけとして、何かしら連携していかなければいけないという事から、選択するにいたりました。

（会長）

絵本に関する展覧会については、分かりました。では、「和田的展」はどうして、和田的なのですか？

（美術館）

和田氏については以前から注目し、取材を続けてきました。彼は２０１９年度、日本陶磁協会賞を受賞しましたが、今回の展覧会では日本の陶芸界を代表する作家が佐倉から出てきたということを紹介したいと考えております。

産地でない場所で作家が育つとはどういう事なのだろうと私はずっと考えていたのですが、香取秀真や津田信夫といった、金工を地場産業としない佐倉でこうした作家が出てくることと繋がっているのではないかと思うのです。当館では昨年度、上瀧勝治氏という佐賀県有田町出身ですが、佐倉市内に築窯し、佐倉を拠点に活動した陶芸家の個展を開催しました。こうした個性的な作家の仕事が、佐倉という土地における工芸の展開の仕方の具体例を示してくれたように思います。

和田氏については今後の活躍も期待出来るため、ある程度若いうちに取り上げておくことによって、地元の作家として継続的に調査したいと考えております。先程の高校生ではありませんが、和田氏の活躍が何かに挑戦したいと考えている若者にとって励みになればとも思います。

（会長）

今、和田氏はまだ４０代半ばでしたね。それでもこんな独自な作り方をして、いわゆる商業主義的ではなく、一つの作品に魂を込めるような作り方をしているではありませんか。今の説明の中で「日本工芸会で頭角を現した」というのは、補足的な説明としては必要ですが、世間一般の方にとってはあまり興味を引くものではないかもしれません。それよりも重要なのは、野球選手と同様に子供たちに頑張れば将来、大金を得ることが出来る、有名になることが出来る、社会に貢献することが出来る、というような良い意味も悪い意味もひっくるめた意欲を沸かせるような、夢を持たせるような、そういう役割をこの作家は担っているかもしれません。

工芸とか、焼き物の文脈での価値を離れたところで、何故こういう作家を扱うのかという理由を是非、深めて下さい。世間一般の方にとって、いわゆる美術史的なつながりの中の説明より、この作家の生き方としてみずみずしさがあるという部分を前面に出すと、展覧会の動員数にも関わってくるかと思います。

他にはございませんか？では、次に進みます。

（３）その他　ネーミングライツ事業について（資料８頁）
＜事務局より説明＞

（会長）
　ネーミングライツ事業について、何かご意見はございますか？
（委員）
　実際に決まるのは４月１日ということですが、それ以前に美術館使用の書類等を提出する場合はこれまで通りでよいのでしょうか？
（美術館）
　提出書類について、正式名称はこれまで通り「佐倉市立美術館」となります。「佐倉市立美術館!...GC'」についてはあくまで愛称となります。条例上の名前は「佐倉市立美術館」のままであり、何かしら申請書類を頂く場合は「佐倉市立美術館」のままです。
（会長）
　前回の会議、私は欠席でしたが、前回の会議に出たご意見と関係するものはありますか？
（美術館）
　前回の会議では、やはり美術館の名称が変わってしまうことを心配しているご意見がありましたが、結果として呼称が変わらなかったので、それは回避されたと思います。
（会長）
　そうですね。頭の方に企業名が来ることもありますね。この１３０万円については何か縛りがあるのですか？何に使おうと自由なのですか？
（美術館）
　この１３０万円は、施設改修費として使用する約束になっております。
（委員）
　この新しいロゴは、４月以降、チラシ等で使われるようになるのですか？
（会長）
　はい、４月以降の印刷物には使用するようになります。「宮西達也展」については、展覧会自体は４月４日からなのですが、印刷は４月１日以前に行われていたので、新しいロゴは使用されておりません。
（会長）
　他にはございませんか？では、協議事項に移ります。